

○学校教育目標について

学習指導要領は社会の変化に応じて改訂を重ね、その度に目指すべき資質や能力の育成を示してきた。学校は学習指導要領の改訂毎にその主旨を取り入れ、教育課程を検討し教育活動に当たっている。

過去、学校教育目標は、学校で育成を目指す児童の姿を大きなくくりとして示すことが多かった。多いものが「知・徳・体」の三観点で示した目標である。そのため、目標とは言うものの1年でどの程度達成できたかという視点では評価することが難しい目標となっていることが多い。

現在の学校運営は、学校評価を行い、児童や保護者、その他の学校関係者、学校職員の意見や評価を考察し、学校運営協議会等の場を活かして学校の運営に反映させていく仕組みである。その流れの中では、「大きなくくりとしての学校教育目標」はただ掲げてあるだけの言葉になり、忘れられた存在になりがちである。学校教育目標を生きたものにするためには、今取り組んでいる教育活動で育成を目指す力を具体的な言葉で示した方がよい。そしてそれは学校関係者が教育活動を検討する際に一番大事な優先すべき目標としていつでも原点確認できる少し大きな言葉がよい。さらにその下に1年間の取組を学校評価などで評価しやすい、より具体的な目標の言葉を置くことが望ましい。

○長崎小「学校教育目標」について

令和4年度から、長崎小で大切にしたい児童の力は「主体性」であると考え学校運営にあたってきた。また、現在学校に求められる大きな教育課題は、先行きが不透明で予測困難な時代の中で、どんな状況でもあきらめず、自らの力でより良い道を切り拓いていくことができる子ども達を育成することとされている。ゆえに小学校段階で第一に大切なことを、自ら取り組み、考える「主体性」を育てることと捉え、学校教育目標を「**主体的に生きる子**」とした。

○「令和6年度具体目標」について

長崎小では、主体的に生き生きと学ぶ児童の姿を目指し、個別最適な学びと協働的な学びの実現に取り組んでいる。また、運動会と長小まつりを2大行事に据え、行事を通して児童の力を育てることにも取り組んでいる。学習や特別活動を通して、児童自らが試行錯誤しながら、主体的に課題を解決していく姿が校内であふれる学校を目指し、令和6年度の具体目標を「**自分でめあてを立て、計画的に取り組む、修正しながら根気強く取り組める子**」とした。